



実践記録を書いてみよう!!

道薬誌3月号で予告した実践記録の書き方をお届けします!

Aさん テーマ:『医療連携・協働』についての実践記録

学習形態: 支部研修会視聴

学習内容: 演題/「より良い医療連携・協働を目指して」

演者/北海道社会事業協会帯広病院 総合診療科 主任部長 堀 哲也 先生

この研修のまとめ:

患者中心の医療の方法

- (1) 疾患、病い体験、健康観を探る
- (2) 全人的に理解する
- (3) 共通の理解基盤を見出す
- (4) 患者-医師関係を強化する

ヘルスエキスパート

- ・同じ症状でも受診のタイミングが違う
- ・治療方針に影響を与える
- ・単身者には相談する相手がいない
- ・それぞれの家族にヘルスエキスパートがいる
- ・キーパーソンと呼ばれることもある

決断の共有

- ・1997年に提唱された概念
- ・医師-患者の双方が意見を表明して交渉
- ・全ての患者が望むわけではない

医療のゴール

- ・医療のゴールは2つに分けられてきた
疾患を治すこと
病む人固有の側面に焦点を当てた患者ケアを行うこと
- ・医療のゴールはたった1つである
患者の well-being

well-being (医療のゴール)

- ・成功した患者ケアは患者が well-being を感じる
- ・すなわち「良く過ごせている」と感じるケアである
- ・患者が病み、その後によくなったならば、それは well-being を回復したということである

高齢者ケアのキーワード

- ・老年症候群
- ・虚弱高齢者
- ・高齢者総合的機能評価
- ・多疾患併存

薬局薬剤師の3つの役割(提言)

- ・臨床評価者の役割
- ・患者教育者の役割
- ・連携推進者の役割

実践活用が出来そうな例・学習が実践活用出来た内容

病院では医療のゴールは「疾患を治すこと」に重きが置かれがちであるが、「患者の well-being」が最も望ましい形であることを学んだ。
今後は今回学んだことを念頭に置き、業務を遂行していきたい。

Bさん テーマ：『AMR_薬局薬剤師の立場から』についての実践記録

学習形態：日本薬剤師会薬剤師研修プラットフォーム

学習内容：演題／薬局薬剤師が取り組む AMR 対策(薬局薬剤師の立場から)

演者／公益社団法人新潟薬剤師会常務理事

新潟県学校薬剤会副会長

さくら薬局長岡古正寺店 大黒 幸恵 先生

この研修のまとめ：

本邦では全抗菌薬使用量の約 9 割が外来経口抗菌薬である。⇒地域薬局薬剤師が AMR 対策活動を行うことが重要

※抗菌薬の適正使用とは

- ・適正な感染症診断
- ・適正な抗菌薬選択
- ・適正な量
- ・適正な期間

処方箋から得られる情報と患者からのヒアリングから判断しなければならない。

AMR 対策を意識し深い関心を持ちできるところから始める。

※服薬アドヒアランス向上につながる抗菌薬投与時の注意事項

- ・飲みやすい方法を支援する
- ・抗菌薬を最後まで飲み切る
- ・保管しておいて次に症状が出た時に自己判断で飲まない
- ・継続使用に問題がある場合には医師に情報提供・相談する

令和 2 年 9 月に調剤後のフォローアップ義務化(フォローアップも AMR 対策)。処方医の考えや地域で流行している感染症の情報取得

※『抗微生物薬適正使用の手引き』の活用

不必要処方・不適切使用になっていないか(標準治療から逸脱していないか)

※自薬局の抗菌薬使用量の実際を把握し意識することが重要。

※市民への AMR 教育・啓発には時間がかかる。情報を伝える相手によって言葉を選び正しい知識を伝える

学校薬剤師として薬教育の中で行うことも有り。

実践活用が出来そうな例・学習が実践活用出来た内容

できるところからやる！！

- ・抗菌薬が処方されている場合は処方意図を考えガイドライン等から用量・投与期間などが正しいか確認してみる。
- ・調剤後のフォローアップを行う。

Aさんの実践記録は、研修内容が整理されており、学ばれたポイントが明確に伝わってきます。特に「患者のwell-being」を医療のゴールとして捉え直された点は、今回の研修の核心を押さえていると感じました。

今回の制度改定では、「実践活用が出来そうな例・学習が実践活用出来た内容」の記載が必須となりました。これは、学んだ内容を整理するだけでなく、それをどのように日常業務へ活かしていくのかまでを意識することが、これまで以上に大切になっていることを示しています。

Aさんは「今後は今回学んだことを念頭に置き、業務を遂行していきたい」とまとめられています。例えば、

- ・服薬指導のときに、薬の説明だけでなく、生活の様子を少し聞いてみる
- ・高齢の患者さんに対して「今の生活で一番大切にしていること」を聞いてみる

といった小さな工夫でも構いません。具体的な場面を一つでも書き添えることで、実践記録はさらにご自身のものになっていくと思います。

実践記録は「正しく書くもの」というよりも、「自分の成長を確かめるためのもの」です。今回の学びが、Aさんの今後の行動にどうつながるのかを少し具体化することで、実践記録はさらに価値あるものになっていくでしょう。

Bさんの実践記録は、AMR対策の要点が整理されており、薬剤師として押さえるべき視点が的確にまとめられています。フォローアップ義務化との関連にも触れられており、実務との結びつきを意識されている点が印象的でした。

制度改定により、実践記録では「どのように実践へつなげるのか」を具体的に示すことがより重視されています。Bさんは「できるところからやる！！」と前向きに記載されており、抗菌薬の用量・投与期間の確認や調剤後のフォローアップといった実務に直結する視点も示されています。

今後は、今回まとめられた内容の中から一つでも「実際にやってみたこと」や「気づいたこと」をご自身の言葉で書き添えることができれば、実践記録はさらに深まっていくと思います。すべてを完璧に書く必要はありません。小さな気づきの積み重ねが、専門性を高める力になります。

(北海道大学薬学部 講師 鳴海 克哉)